秋彼岸法要・宮戸道雄先生ご法話のご案内

日時　　**９月２２日（木・秋分の日）**
　　・午前１０時～１２時　（お勤め、お話、お斎昼食付き）
　　・午後　１時～　２時　（座談）
会場　　真勝寺本堂
会費　　無料
対象　　どなたもご参加ください（お檀家以外の方もお気軽に）
講師　　**宮戸道雄　先生**　（滋賀）

写真：講師の宮戸先生

〔講師紹介〕
１９２８年、滋賀県のお生まれ。時に厳しく時に暖かく、実生活を通じた分かり易くも仏法の真髄に迫るお話は、NHK「こころの時代」「宗教の時間」にご出演される程注目されている。
彼岸法要をご縁に世代を超えて是非多くの皆様に聞いて頂き、彼岸の世界・浄土の教えに共々に出遇って参りたい。
京都大谷専修学院研究科卒業。大谷派同朋会館・補導主任。大谷派四国教区・駐在教導。奥羽、高山、長浜各教務所長。高山、長浜、各別院輪番。大谷派宗務所・企画室長、研修部長を経て、現在、大谷派京都教区近江第 11 組・慶照寺住職。
著書に『家族の絆』『仏に遇うということ』（樹心社）『念仏者の心得』（法蔵館）ほか。

〔秋彼岸法要について〕
　秋分の日を中日に前後合わせた七日間を「お彼岸」といいます。「彼岸」とは、向こう岸のことで、こちらの岸、つまり「此岸（しがん）」に対する言葉です。仏教で此岸（しがん）とは、様々な境遇の中で右往左往しながら生き惑う私たち凡夫（ぼんぷ）の世界を意味します。
　また彼岸という名は、仏教の原語ではパーラミタ、訳して到彼岸ということであり、此（こ）の岸から彼（か）の岸にわたるということです。つまり信なき者が仏法を聞いて信心の彼の岸へ到る、目覚め救われていくということで、人間生活のまことの意義をしめすものです。
　そして「お彼岸会法要」とは、此岸に生きる私たちが亡き方を御縁に仏さまに導かれ、迷いの世界から浄土の岸に到ることの尊さを教えていただく仏事とされています。
　真勝寺の彼岸会法要は、特に近年大切な方を亡くされた方々を対象に、お寺での合同供養会として開催されています。また当日はすべてのお参りの方へ、お斎のお弁当を用意しております。
　ご対象の方をはじめ、毎年のご供養のお志のある方は、万障お繰り合わせのうえ、ご家族やご親族、有縁の方をお誘いしてお参り下さりますよう、お願い申し上げます。

仏教徒と言いますのは、お釈迦様から、目を開いた人から教育を受ける。お釈迦様から、目覚めた人から、お育てをいただく。生徒になるということでありましょう。これを仏教徒といいます。念仏学校の生徒ですね。

（中略）「念仏学校一年生」という教室に入ってもらいまして、何をするのか。親鸞聖人のご指南を受けてもらうんです。このご指南を受けてもらうということが教室に入ってもらうという意味なんですよ。入ってみたら何がわかるのか、仏法の理屈がわかるんでない。自分の本当の姿というものが仏様によって照らし出されてくるんです。仏様の教えに遇うということは、お光に遇うということです。光というとなんかわからん感じですが、光ということは難しいことをいわなくていいんですよ。光が来たら明るくなるということですよ。明るくなったらどうなりますか。今まで見えなかったものが見えるということですよ。難しいことではないんですよ。光が来ることによって今まで見えなかったものが見えるんですよ。それを光明を蒙（こう）ると申します。

（中略）念仏を我々はうっかりすると、念仏を使うんです。先祖のため、誰のためって念仏を使っておるのです。念仏を使ってどうしようと思っているのか、自分の都合のええようにしようと思うのです。そうではない。念仏は正しい自己認識です。

（中略）方向が分かってくれば一歩でも歩けますよ。方向が分からなければ、歩いてみようが無いですよ。どういう方向か。自分というものに目覚めていくということです。自己を認識するっちゅう事です。

（中略）自分がどこにおるかということを、常に注意しておく。照らされていく。そうすると、自分とはどういうものかということに気付かされてくる。

宮戸道雄先生講演録『念仏学校一年生』（大谷婦人会北海道連合会）より抜粋

〔当日について〕

◎ １３時からの座談会も是非ご活用ください。
法話の内容や悩み事等について自由に話し合いましょう。参加自由。

◎拙寺「盆法要」へは、檀家様やそれ以外の方もご参加いただけます。
当日、檀家への勧誘行為や信仰の押しつけ、名簿の記入は行いません。

◎ 「駐車場」はございますが、混雑が予想されます。複数で来られる場合は乗り合わせて下さいますようご協力をお願いいたします。「真勝寺駐車場」とお寺から２００メートル南東にある「新潟運輸静岡支店」様の駐車場をご利用下さい。
誘導員の指示通り、安全かつ円滑に御参拝下さりますよう、御協力をお願い申し上げます。

【お問い合わせ】真宗大谷派　自然山　真勝寺
静岡市 葵区 長沼 2－１８－２３
☎054-261-3328　FAX054-261-2970
Ｅメール：makoto0100@mac.com　（担当：副住職　一郷真）